

事業名	種子島西之表市いけばな展開催事業
-----	------------------

総事業費	4,331 千円
------	---------------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	17.芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	61.伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図		伝統文化である「いけばな」に興味・関心を持ってもらい、郷土の歴史を知り、伝統文化を通して地域の活性化を図る。
事業の実績 と 成果	取組内容	鹿児島県連合華道会、市内華道団体の協力を得て、予定通りいけばな展を開催した。
	成 果	多数の来場者があった。まなび一隊の参加もあり、体験教室も盛況であった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	市内華道団体の育成。県連合華道会との連携。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	平成27年の国民文化財を契機に開催している「いけばな展」であり、西之表市と華道の歴史的な関わりなどが市民に浸透してきた。また、鹿児島県内の一流の華道家の作品を鑑賞する機会の提供を行い、伝統文化いけばなに対する市民への普及啓発が図られた。今後は島内の華道団体の支援育成やいけばなに関わる人の増加、さらなる本市の伝統文化の普及啓発を目指すため、島内華道団体のみでいけばな展を開催し、将来的には島内いけばな団体によるいけばな展が開催できるような体制づくりを行っていく必要がある。

④ 改善 (Action)

2019年度方向性	島内華道団体による、いけばな展、体験教室の開催 いけばなと本市の歴史的な深い関わり等の普及啓発
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	民俗文化財調査事業
-----	-----------

総事業費	2,696 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図		重要な文化財の記録保存、ならびに市民の文化財保護意識の高揚を図る
事業の実績 と 成果	取組内容	「西之表の種子鋏製作技術」民俗文化財調査事業（3年事業）の最終年であった。 調査委員による調査、調査委員会の開催、報告書作成に取り組んだ。
	成 果	調査委員の原稿入稿が遅れ、多少の慌ただしさはあったが、無事に報告書を発行することができた。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	調査委員や文化庁オブザーバーなど、島外の委員が多いと、スケジュール調整等、大変である。 無事に報告書を作成し、記録作成等の措置は講じられたが、技術を継承していく後継者育成については課題として残ったままである。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	種子鋏の製作技術について、専門家に調査を依頼し、その調査成果をまとめた報告書を刊行したのは非常に意義深く、記録保存を行ったことで今後の研究や伝統技術の継承にもつながっていく。市民に対する文化財的価値に対する普及啓発と伝統技術を受け継いでいく後継者の養成について、関係部署と連携して取り組み、継承・保存に努めていく。

④ 改善 (Action)

2019年度方向性	今年度から南種子町と共同で「種子島の盆踊」の記録保存調査が始まった。南種子町主導の調査があるので、連絡を密に取り円滑な事業遂行を目指す。
-----------	--

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明

事業名	市制施行60周年記念事業
-----	--------------

総事業費	2,012 千円
------	----------

① 計画 (Plan)

長期振興計画 の位置づけ	施策名	芸術文化・文化財保護の充実
	基本事業名	伝統文化・民俗芸能の保存と活用

② 実施 (Do)

事業の意図		市制施行60周年を盛り上げる。郷土芸能保存会の活性化を図る。市民の文化財保護意識の向上。
事業の実績 と 成果	取組内容	郷土芸能フェスティバルの開催
	成 果	西之表市には多種多様な素晴らしい郷土芸能があることを、多くの市民に認識してもらう機会となった。出演団体においては、踊り手不足が解消されたわけではないが、新しい踊り手の育成など、活性化が図られた保存会もあった。

③ 振り返り (Check)

事業実施上の課題 (事業担当者記入)	市民体育館駐車場での開催であったが、商工フェスタ等との合同開催であり、駐車場は全てイベント会場として使用したため、出演者の駐車場を確保することができなかった。対策として、保健センターで着替えをしてもらい、マイクロバス送迎を行った。
評価結果の根拠 及び今後の課題 (担当課長記入)	出演団体の決定時点で、多少の課題はあったが、最終的に11団体の出演で、郷土芸能フェスティバルを開催することができた。 屋外開催による雨天時の想定、周辺駐車場不足に伴う対策、出演団体との綿密な打ち合わせ、商工フェスタ等との合同開催による他課との連携など、万全の態勢で、当日も大きな問題なくスムーズに進行がなされた。 今後の課題としては、踊り手不足の課題解消のためには披露機会の充実が必要であり、10年おきではなく5年おきぐらいの開催頻度とする、もしくは2年おきに出演団体を減らし開催するなど、市民や保存会組織に、継続性のある定着したイベントになるよう工夫する時期にきている。

④ 改善 (Action)

2019年度方向性	事業終了
-----------	------

【参考資料】

※事業の取組内容・成果がわかる写真や図・グラフ等	説明